

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
現代の国語	2	1年・1類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
****	現代の国語（東京書籍）		漢字問題集等

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	評論 「技術が道徳を代行するとき」池内了	・評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	・具体例と筆者の主張との関係を読み取り、全体の構成を理解する。 ・譲歩構文・接続詞に注目して本文の展開を理解する。
	5	「水の東西」 山崎正和 『「身銭」を切るコミュニケーション』内田樹 「解釈」外山滋比古	・技術と人間の関係、日本と西洋の文化の違いを2項対立で理解する。 ・言葉本来の目的であるコミュニケーションの成立には、「文脈」の理解が必要であることを理解する。	・「鹿おどし」と「噴水」の違いを整理し、筆者の考える日本人の感性について考察する。 ・身近な例から言葉を正しく伝えるには何が必要かを考える。
	6		・読者論、テキスト論の立場から、作品の理解は作者と読者の協同によって成立することを理解する。	・解釈することが創造であるという視点から、「読む」ことの意味を再考する。
	7	小論文講座 1学期末考查		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	評論 「広告の形而上学」 岩井克人	・言語と文化、広告について論じた評論を読み、それぞれの問題について、自身の考えを深める。 ・評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。	・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 ・「現実の動物たち」と『動物』なるものについて、対比させて読み取る。
	10	「時間と自由の関係について」 内山 節	・自己と他者の関係のあり方について関心を持ち、考える態度を養う。	・筆者の理想について確認する。 ・評論読解力を培う。
	11	「真の自立とは」鷲田清一	・「自立」という言葉を一般的な意味とは違った視点で捉え直し、筆者のいう「生きる意味」について理解する。	・現代社会のさまざまな局面における「生きづらさ」の問題を解決する道を、自ら考える力を養う。
	12	「生物の多様性とは何か」 福岡伸一	・生物多様性について論じた評論を読み、それぞれの問題について、自身の考えを深める。	・キーワード・キーセンテンスに注意しながら読み取る。 ・「生物多様性」についての筆者の考えをまとめる。
		マッピングによる学習 2学期末考査		
三 学 期	1	評論 「学ぶことと人間の知恵」	・人間の脳の特徴から「知恵」というものを正しく理解し、論理的文章の在り方を深く学ぶ。	・「知恵を身につけるために学ぶ」という結論ありきで展開する文章を、具体例を通じて正確に読み進める。
	2	「暇と退屈の倫理学」 松浦寿輝	・暇を得た社会の中で、個人はどう生きればよいかを考える。	・引用と筆者の主張の関係に注意して、内容を的確に読みとる。
	3	グラフや写真の読み取り 学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・各学習課題に沿って進んで学習活動に取り組もうとする姿勢をレポートなどで確認し、主体的に学びに取り組む態度として評価する。
- ・小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
現代の国語	2	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
****	現代の国語（東京書籍）		漢字問題集等

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	評論 「技術が道徳を代行するとき」 池内了	・表現や構成に注意して評論を読み、本文の内容を的確に理解する。	・論の展開に注意して評論を読み、技術の発達と道徳的な判断力の関係について理解する。
	5	「水の東西」 山崎正和 評論の型 1 学期中間考査	・技術と人間の関係、日本と西洋の文化の違いを二項対立で理解する。 ・評論の型を理解し、評論の読み方を知る。	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・筆者独自の表現や具体例の働きに注意して読み、コミュニケーションの在り方について考える。
	6	『身銭』を切るコミュニケーション 内田樹 「言葉は世界を切り分ける」 今井むつみ 探求編 話す・聞く	・言葉を巡る事柄について書かれた評論を読み、言語生活を豊かにする。	・他言語と比較することで言葉の意味の在り方を理解し、言葉に関心を持って言語生活を豊かにする。
	7	発想を広げて課題を見つける 問題演習① 小論文指導 1 学期末考査	・発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える。	・自分の興味・関心をきっかけに思考や発想を広げ、深める方法を身につける。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	評論 「広告の形而上学」 岩井克人	・文章の構成や展開に注意して評論を読み、自ら考える態度を養う。	・比喩に注意して、広告の奇妙さについて書かれた評論を読み、現代社会の特質について考える。
	10	「時間と自由の関係について」 内山 節 小論文指導 問題演習② 2学期中間考査	・評論に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。	・時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じてその内容を要約する。
	11	「真の自立とは」 鷲田清一 「共鳴し引き出される力」 伊藤亜紗 「生物の多様性とは何か」 福岡伸一	・具体的な事例に注意して評論を読み、「自立」の在り方について考えを深める。	・「自立」の在り方について考察する評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。
	12	探求編 書く 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる 問題演習③	・構成や展開に注意して内容を読み取り、人間の特質を考える。	・紹介されている体験談を踏まえて、「能力」に関する筆者の考えを読み取る。
		2学期末考査	・読んだ文章から問いを作り、構成を工夫して意見をまとめる。	・生物多様性について論じた評論を読み、それぞれの問題について、自身の考えを深める。
三 学 期	1	評論 「学ぶことと人間の知恵」 広中平祐	・構成や展開に注意して内容を読み取り、人間の特質を考える。	・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。
	2	「暇と退屈の倫理学」 松浦寿輝 探求編 グラフや写真の読み取り方	・引用や主張に注意して内容を読み取り、近代から現代への変化と、そこで生きる人の姿を見つめる。	・暇を得た社会の中で、個人はどうかについて、引用と主張の関係に注意して読み取る。
	3	問題演習④ 学年末考査	・図表や画像などを的確に読み取る力を養う。	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・教科書の読解だけでなく新聞や参考書等も読み、授業で培った読解法を実践していくことで確かな学力を自主的に育んでいく。
- ・小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
現代の国語	2	1年・3類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
****	新編現代の国語（東京書籍）		漢字問題集

科目の到達目標 言語活動を通して、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について a (知識・技能) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b (思考・判断・表現) 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c(主体的に学習に取り組む態度) 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	随想 「こそそめスープ」 村田沙耶香	・筆者の考え方や感じ方を的確に読み取る。	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。
	5	「ルリボシカミキリの青」 福岡伸一 評論 「未来をつくる想像力」 石田英敬	・具体例が本文の展開にどのように関わっているかをつかむ。 ・現代の社会における様々な問題について理解する。	・言葉を通して日常生活を見直すと共に、文章構成の基本的な枠組みと読解の基本方法を学ぶ。 ・意見の根拠を的確に理解し、筆者の主張をつかむ。
	6	「水の東西」 山崎正和	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴を論じる叙述の方法を把握する。	・「鹿おどし」と「噴水」の違いを整理し、筆者の考える日本人の感性について考察する。
	7	小論文講座		
		1 学期末考查		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 塚谷裕一	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。	・「都市部のスキマ」と「都市部の公園」の違いを、生態系に果たす役割という観点を押さえながら読み取り、整理する。
	10	「無彩の色」 港千尋	・ネズミ色のイメージをマイナスからプラスに転じる論展開と、筆者が論拠としてあげる事例を把握する。	・例示された個別の情報を具体的に検証し、筆者の考えとの関係を整理する。
		「鍋洗いの日々」 村上信夫	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	・働く人の思いに触れ、社会に生きる自分の将来について考える。
	11	「美しさの発見」 高階秀爾	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、考えを深めさせる。	・評論の構成や論の展開の仕方を理解し、内容を的確に捉える。
	12	マッピング・ブレーンストーミングによる学習 2学期末考査		
三 学 期	1	「りんごのほっぺ」 渡辺美佐子	・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作者の思いを読み取る。	・「T君」と「私」との関わりや、「私」の「T君」への思いを整理する。 ・「T君」の両親に対面したときや朗読劇に参加したときの「私」の心情を表現に即して捉える。
	2	「真の自立とは」 鷲田清一 グラフや写真の読み取り	・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	・筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉との違いを踏まえて読み取る。
	3	学年末考査		

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・ 感覚的に読解するのではなく、文や文章の構成を的確に把握することで、論理的な読解ができるように意識して取り組む。
- ・ 各学習課題に沿って進んで学習活動に取り組もうとする姿勢をレポートなどで確認し、主体的に学びに取り組む態度として評価する。
- ・ 小テストを実施し、評価に組み込む。
- ・ 小論文入試・論述問題を視野に入れながら、計画的に文章表現の練習を行い、添削講座にも参加する。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
言語文化	2	1年1類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	言語文化 (東京書籍)	古文単語テキスト等	

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	古文の学習 説話 「児のそら寝」	- 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 - 古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 - 古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。 『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。	- 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を理解する。 - 主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 - 主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。
	5	「絵仏師良秀」 『宇治拾遺物語』 古文学習のしるべ①② 1学期中間考査 「大江山の歌」 『十訓抄』		
	6	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」 『徒然草』 古文学習のしるべ③		
	7			
		1学期末考査		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆 「ありがたきもの」 『枕草子』	・自由に記述された随筆を読んで、 当時の人々の生活感覚や興味の 対象を知り、ものの見方・考え 方を理解する。	・随筆のさまざまな文体や取り上げられ た対象に触れ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
	10	歌物語 「芥川」 「筒井筒」 『伊勢物語』 古文学習のしるべ④ 助動詞①	・話の中で和歌が果たしている役 割を押さえ、歌物語の特徴と読 み解き方を理解する。	・主として敬語について文語のきまりを 理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあること を理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、 内容や展開を的確に捉え、作品に表れ ているものの見方や考え方を捉え、内 容を理解する。
	11	2学期中間考査 漢文の学習 訓読の基本 日記 「馬のはなむけ」 『土佐日記』 助動詞②	・我が国の言語文化についての理 解を深めるために、古典として の漢文を読むことの意義を知 る。 ・我が国最初の日記文学を読んで、 記録としての日記とは異なる表 現方法と随筆意図を読み解く。	・漢文を訓読するための基礎知識として、 返り点の種類と使い方、助字のはたら きと意味を習得する。 ・女性に仮託して書かれた日記という文 章の種類を踏まえて、内容や展開を的 確に捉える。
	12	2学期末考査		
三 学 期	1	作り物語 「天の羽衣」『竹取物語』 和歌 『万葉集』、『古今和歌 集』、『新古今和歌集』 3学期末考査	・最古の作り物語を通じて、虚 構の物語に込められた思い を汲み取る。 ・我が国の伝統文化の一つである 和歌の鑑賞のしかたを理解し、 黎明期、発展期、成熟期の和歌 の特色を捉える。	・敬語の学習を通じて、登場人物の把握 や立場の理解をし、本文の理解に役立 てる。 ・枕詞や序詞などの和歌の修辞について、 文語のきまりを理解する。 ・掛詞・縁語・見立てなどの和歌の修辞 について、文語のきまりを理解する。 ・本歌取り・本説取り・体言止めなどの 和歌の修辞について、文語のきまりを 理解する。
	その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・正確な読解に向けて古文の文法や古語、漢文訓読の学習を心がけること。また知識・技能を身につけるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めるよう心がけること。 ・伝え合う活動などを通して、内容理解を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりすること。 ・小テストを実施し、評価に組み込む。 ・ノートや課題の提出状況・内容も評価に組み込む。			

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
言語文化	3	1年2類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
****		言語文化（東京書籍）	古文単語 330（いっずな書店） 学ぶぞ古文と漢文（尚文出版）

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。以上の観点について、定期テスト・レポート・小テストなどを通して確認する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	「兄のそら寝」 「絵仏師良秀」 『宇治拾遺物語』	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。	・歴史的仮名遣いや古今異義語・品詞の種類について理解する。
	5	「大江山の歌」 『十訓抄』 1学期中間考査 「ある人、弓射ることを習ふに」	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。	・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。
	6	「九月二十日のころ」 『徒然草』 古典文法（用言） 漢文 訓読の基本 矛盾・推敲	・随筆に現れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解する。
	7	『羅生門』芥川龍之介 1学期末考査 夏期講習（助動詞）	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。	・作品に表れた作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取る。
			・小説に親しみ、話の展開や主題を読みとる。	・動詞・形容詞・形容動詞の活用について学ぶ。
				・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味を習得する。
				・故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。
				・小説に描かれた登場人物・情景・心情などを、表現に即して読み取る。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	「ありがたきもの」 『枕草子』 古典文法（助動詞復習） 「芥川」 「筒井筒」 『伊勢物語』	- 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 - 話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 - 話の構成や展開を確かめ、寓話の内容や表現の仕方について理解する。	- 作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。
	10	借虎威 塞翁馬 2学期中間考査	我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。	登場人物の言動から、寓話に込められた意図について考える。
	11	「馬のはなむけ」 「帰京」 『土佐日記』 古典文法（敬語）	我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。	- 女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 主として敬語について文語のきまりを理解する。
	12	臥薪嘗胆 問題演習 2学期末考査	史話に描かれた情景や人物の心情などを、表現に即して読み味わう。	登場人物の言動を読み取り、そこに表れたものの見方、感じ方、考え方を捉える。
		冬期講習（助詞）		
三 学 期	1	「平泉」 『奥の細道』 『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』	- 俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 - 我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞のしかたを理解し、黎明期、発展期、成熟期の和歌の特色を捉える。 - 漢詩のきまりと表現の特色について学び、唐詩の世界に親しむ。 - 小説に描かれた登場人物の感じ方や生き方などを、話の展開に注意して読み取る。	句に感動の中心がある俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。
	2	漢詩 絶句と律詩 雑説		枕詞や序詞などの和歌の修辞について、文語のきまりを理解する。
	3	『富嶽百景』 太宰治 問題演習 学年末考査		- 描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの詩や文を読み味わう。 - 場面ごとの情景や登場人物の心情の変化に留意して、小説を読み味わう。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） - 正確な読解に向けて古文の文法や古語、漢文訓読の学習を心がけること。また知識・技能を身につけるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めるよう心がけること。 - 予習として、古文は音読・本文書写・口語訳を、漢文は音読・本文書写・書き下し文をしておくこと。 - 大学入試に向けての基礎学力養成のため単語・古典文法の小テストを実施し、評価の一部とする。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
言語文化	2	1年3類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	言語文化 (東京書籍)		

科目の到達目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法について
a(知識・技能)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。b(思考・判断・表現)「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。c(主体的に学習に取り組む態度)言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
	4	古文の学習 説話 「児のそら寝」	- 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 - 古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。	- 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を理解する。 - 主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 - 本文中に表れた作者の批評・教訓・感動などを積極的に読み取る。
	5	「絵仏師良秀」 『宇治拾遺物語』 古文学習のしるべ①②		
		小説 「羅生門」 芥川龍之介		
	6	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」 『徒然草』		
	7	古文学習のしるべ③		
		1学期末考查		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	随筆 「ありがたきもの」 『枕草子』	・自由に記述された随筆を読んで、 当時の人々の生活感覚や興味の 対象を知り、ものの見方・考え 方を理解する。	・随筆のさまざまな文体や取り上げられ た対象に触れ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。
	10	歌物語 「芥川」『伊勢物語』 小説 『富嶽百景』 太宰治	・話の中で和歌が果たしている役 割を押さえ、歌物語の特徴と読 み解き方を理解する。 ・それぞれの場面の情景や登場 人物の心情の変化に留意し て小説を読み味わう。	・主として敬語について文語のきまりを 理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあること を理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・周囲の人々に対する「私」の感じ方 を整理する。 ・富士に対する「私」の心情を読み取 る。
	11	日記 「馬のはなむけ」 『土佐日記』	・我が国最初の日記文学を読んで、 記録としての日記とは異なる表 現方法と随筆意図を読み解く。	・女性に仮託して書かれた日記という文 章の種類を踏まえて、内容や展開を的確 に捉える。
	12	2学期末考査		
三 学 期	1	作り物語 「天の羽衣」『竹取物語』 敬語表現 和歌 『万葉集』、『古今和歌 集』、『新古今和歌集』 3学期末考査	・最古の作り物語を通じて、虚 構の物語に込められた思い を汲み取る。 ・我が国の伝統文化の一つである 和歌の鑑賞のしかたを理解し、 黎明期、発展期、成熟期の和歌 の特色を捉える。	・敬語の学習を通じて、登場人物の把握 や立場の理解をし、本文の理解に役立 てる。 ・枕詞や序詞などの和歌の修辞について、 文語のきまりを理解する。 ・掛詞・縁語・見立てなどの和歌の修辞 について、文語のきまりを理解する。 ・本歌取り・本説取り・体言止めなどの 和歌の修辞について、文語のきまりを 理解する。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・正確な読解に向けて古文の文法や古語、漢文訓読の学習を心がけること。また知識・技能を身につけるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めるよう心がけること。 ・伝え合う活動などを通して、内容理解を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりすること。 ・ノートや課題の提出状況・内容も評価に組み込む。				